'03年 本試・小説 解答

センター国語の問題に臨むときは、**□9 リード文（前文）・注は読解や解答のヒントとして利用せよ。**のツールを常に意識しよう。本問題では、前文にある「戦後の食糧難」という時代背景や、少年とその兄が「かつて父の使用人であった酒場の主人のところに使いに出された」ことを踏まえていないと、本文を理解できない。また、注2で「大豆滓」が「大豆から油をしぼり取ったかす。通常は肥料などにする」と説明されていることは、本文で「大豆滓ととうもろこしの雑炊を食べて」いるという兄弟の食生活が貧しいものであることを、はっきりと示している。

問1

正解 ア＝④ イ＝② ウ＝⑤

まずアの「心得顔」は一語であるので、

□25 一語の意味を問う問題は、辞書的意味を優先させよ。

に従う。「心得顔」とは「心得ているという顔」であり、「心得ている」とは「分かっている」ということだから、④が正解となる。実質的に「心得る」という一語の辞書的意味の問題である。

なお、「○○顔」という形の単語の中に、「したり顔」という慣用表現がある。この「したり」とは、動詞「す」の連用形に、助動詞「たり」の付いたものである。意味は、「うまくやったといわんばかりの得意そうな顔つき。自慢げな様子」となる。よく使う表現なので、知らなかった人はここでおぼえておくとよい。

次のイの「のっぴきならない」は慣用表現で、実質的には一語であるので、同様のツールを用いる。「事態はのっぴきならないところまで来てしまった」などと使うように、②が正解。なお「退っ引きならない」が漢字での表現で、「退くことや引くことができない」というのが本義である。

ウは単純な語であるだけに、本文に順番に代入しそうになるが、**□26 意味問題では、選択肢を傍線部に代入して答えを求めてはならない。**ので、やってはいけない。これも一語なので同様のツールを用いると、「様子・雰囲気」などの意味であるので、⑤が正解。

問2

正解 ④

□19 心情を含んだ内容を問う問題では、傍線部の心情部分でサーチせよ。

を用いる。具体的には、「(自分ひとりが)乳のみ児のように道理をわきまえない子供だと思われ」でサーチする。とりあえずこの記述に合う要素の有無を見てみると、①の「幼稚に感じられ」、③の「幼稚だと思われてしまい」、および④の「幼く感じられ」が対応している。②⑤は不足で×。次に、

□21 心情問題では、誰の（心情の主体）何に対する（目的語）に対する心情かを押さえよ。

を用いる。傍線部は、弟が、兄と比べて幼い自分に対して「肚だたしく」思っているのであるから、③にあるような「周囲から…」が出てきてはおかしい。「勝手」選択肢で×。自分の幼稚さに対する弟の気持ちが書かれた①④が正解候補に残る。このあとは、①④に書かれた「幼稚」の中身を比較する。そのために本文に

戻って「幼稚」の内容を考える。まず、傍線部の直前に「弟の目には兄がおとなっぽく映った」とあるので、

□8 二種類の内容が対照的に記述されている場合には、二項対立でまとめよ。

を用い、弟と兄の比較を通して弟の感情を考える。ここでは傍線部の直後に「いったい兄は皿の桃をどう思っているのだろう……どうして平然とおちつきはらっていられるのだろう」とあるので、（日頃ろくなものを食べていないのにも関わらず「桃」を目の前にして平然とした態度でいる）兄との対比より、弟は「桃」の誘惑に耐え難くて、平然としていられない状況なのだということがわかる。このことから「桃」の誘惑が不可欠な要素だと言うことになる。よって、「『桃』の誘惑に負けそうで逃げ出そうとする自分の幼稚さ」への弟の「腹立ち」の気持ちを記述した④が正解。「桃」と関係ない「米が売れそうにない不安から帰ってしまおうとする自分への幼稚さ」をいっている①は×。

■①は選択肢の前半で「妹のためにお金を得ることだけを考えている兄…」というように、「だけ」という勝手な強調語・限定語が入っているので、**□29「しか、のみ、だけ」など限定が入った選択肢は間違いであることが多い。**」に従って、×と疑える。実際、本文の傍線部Cで「まあ何だな、出された桃は食べなかったしさ」とあるように、兄も「桃」のことを何とも思っていなかったわけではないことが分かるので、「お金を得ることだけを考え」ていたとは言えないから×。

■②は、「自分が卑怯に思われ」が「勝手」で×。「卑怯」と感じてるという内容の記述は本文には無い。③は傍線部の「思われ」は自発の意味で用いられているのに、それを「受け身」の意味に「すりかえ」ている選択肢で×。⑤は、「自分が卑しく思われ」が「勝手」で×。該当する記述は本文に無い。

■また、①と同様に、②も桃に対する弟の気持ちが「不足」している選択肢で×。③は中心となる文が「兄に帰りたいと言ったため（原因）、そんな事態を招いた（結果）自分に腹を立てている」という内容となり、桃から外れるので「勝手」選択肢で×。

問3

正解 ③

注目すべき点は傍線部の冒頭「要するに」である。「要するに」は前をまとめるときに使う表現なので、

□13「いいかえれば、すなわち、つまり」などの言葉がある問題は、言い換え問題として解く。

というツールを用いる。傍線部の前の主人の発言部分の言い換えの選択肢を探す。「あんまりみくびってもらいたくないもんだ」を使ってサーチすると、適当なものは⑤の「自分を低く見ているのかと怒りを感じている。」しかない。念のため傍線部の「残念なんだ」でも述語サーチをすると、②は「つらいと思っている」△、③は「改心してほしいと願っている」△、④は「驚きあきれている」×、⑤は「やりきれない思いと同時に、…怒りを感じている」○ となりやはり⑤が正解。

■**□22「AながらもB」、「Aである一方B」、「AであるとB同時にB」の形が正解の候補。**」を使って、正解は⑤

■**□21 心情問題では、誰の（心情の主体）何に対する（目的語）に対する心情かを押さえよ。**」というツールを用いて選択肢を絞ることも可能。傍線部は社長の行動に対する主人の感情だから、その方向性で書かれていないものは×だ。②は「今の自分の生活ぶり」という余分な対象が「勝手」に加えられているので×。

■なお、本文内容と比較すると①は「かつては社長との間も対等」が「勝手」選択肢で×。②は「生きていくために手段を選ばなくなった今の自分」がやはり「勝手」選択肢で×。③はまず「以前は真っ正直な人間」というのが「勝手」で×。また、「改心してほしいと願っている」もおそろしく「勝手」な記述で×である。④は「今は何かと世話をしてやっていて」が本文にない「勝手」な記述で×（たまった酒代を催促しないでいるという記述はあるが、それだけでは「何かと世話をしてやって」いることにはならない）。

問4

正解 ③

この設問も心情を問う問題であるが、傍線部及び至近の要素・ヒントを見つけづらいため難しくなっている。

□20 心情問題では、傍線部の至近にある心情を示す言葉でサーチせよ。

を用いる。傍線部の2行前に「うって変わったように弱々しい兄の口調」とあるので、これでサーチする。②は「途方に暮れ」、③は「屈辱感にうちひしがれながらも」があって残る。①④⑤は「不足」で×。

②で「桃を食べなかったという判断の正しさ」とあるが、桃を食べないという「判断」をした記述は本文には無い。兄は（弟も）初めから桃を食べようとはしていないのであって、桃を食べるべきか否かの判断を迫られた上で食べないと決めたわけではない。よって②は「勝手」で×。残る③が正解。

■ **□22 「AながらもB」、「Aである一方B」、「Aであると同時にB」の形が正解の候補。**「屈辱感にうちひしがれながらも、自分を支えようとしている」③が正解。ここでは「まあ何だな」が前後の話題（この場合は心情）を転換させる役割を担っているので、これ以前と以後の2種類の心情が込められているのだ。例えば「お前、カノジョと別れたのか、まあ何だな、そのうちにいいこともあるさ」などと使う言葉だとわかればよい。④は「後悔しているが、負け惜しみを言っている」では、A＝後悔、B＝負け惜しみとして、A、Bが反対概念ではないので、正解らしくない。

■ ①は兄だけが桃に手を出さなかったならば言えることであるが、弟も手を出していないので根拠とならず「勝手」選択肢で×。④の「後悔している」は本文に無い「勝手」な記述だから×。⑤は「取引に不利になると思って」が全くの「勝手」な記述で×。⑤ではまた、「酒場の主人への当てつけ」という記述もかなり「勝手」である。

■ ⑤はまた「主人」が心情の対象となっており、**□21 心情問題では、誰の（心情の主体）何に対する（目的語）に対する心情かを押さえよ。**に抵触しているので「勝手」選択肢となって×。

問5

正解 ①

人物像を問う問題だ。この問題は全体から考えるわけだが、この部分に傍線が引かれた理由があるはずだ。

□5 本文の全体を通して考えることを条件とした問題でも、まず傍線部の箇所で選択肢を絞る。

というツールから入る。傍線部は兄と弟の「見る」ことを通じての差が述べられている部分である。ところが③は、前半の「弟」に関する記述において、「目」とか「見る」ということに言及していない。よって、「勝手」選択肢で×。

次に、各選択肢で、まず兄についての記述を見てゆくと、②では、「自分の感情に振り回され、思いのままの行動がとれなくなっている」の部分が本文の兄とはかなり異なる。兄は自分の感情をむしろ抑え気味で、「自分の感情に振り回され」てはいない。よって②は、本文の記述に反する「反対」選択肢で×。次に⑤の兄を見ると、「今を見失いがちである」が×。本文での兄はむしろ、そのときそのときの自分達が置かれた状況を、現実的な観点からちゃんと見ようとしている。

次に弟から見てみよう。④の「直接目に見えないものにまで意味や象徴性を読み取ろうとする」とあるが、弟が「直接目に見えないもの」の「意味や象徴性」を見ているという記述は本文にはないので、「勝手」選択肢となり×。残る①が正解。弟の「感受性に従い次々と心を動かされていく」ことは、酒場の主人のところを出てから、「銀色の月」→「木犀」→「夜景」というように、現れてくるものに次々と反応しているところによく表れている。①ではまた、兄は「今置かれている状況にどう対応するかということに目が行く」「現実に立ち帰ってものを考えようとする」とされているが、このことは、（1）売れなかった米の包みをかかえて店を出たときに、弟が「銀色の月」を見つけても、弟に「なんだよ」と「とげとげしい返事」をしてしまい、「今の兄が銀色の月に陶酔できるはずがない」と思われてしまうところや、（2）弟が「夜景」に陶酔していると

きに、「あたりの家並みはまったく見おぼえがない」ほど遠くにきてしまった現実に対面して、「ここはどこだろう」という語尾がふるえてしまうところに、弟とは対照的に、よく描かれている。

問6

正解 ②

「木犀」の役割を問うているが、一種の表現問題である。今回は不適切なものを選ぶので、「□31 「不適当なものを選べ」という問題では、最悪な選択肢を選び、「怪しき選択肢」は間違いと見なさない。」も用いる。

選択肢を順に見ていく。

① 「兄にも子どもらしい感情を取り戻させ」の部分は「兄がひとりでに軽くはずみ」に表れており、それは「解放感」と言っても差し支えないだろう。

② 「何かを強く望めばそれが手に入ることもあり得るという実感を兄弟に与えている」が本文にまったくない「勝手」な記述で×。兄弟は木犀の木を探し求めたが見つけられずに遠くの街にまよいこんでしまったという事実に着目すると、むしろ本文の記述と「反対」ともとれる。

③ ①のところで述べたように、「木犀」が解放感をもたらしているから、この選択肢の前半は正しい。後半は最後の傍線部Dから判断できることであるので、正しい選択肢である。

④ 最後には兄のほうは不安といらだちという現実に戻るが、「木犀」を一緒に探している場面などは「つかのまの一体感」そのものなので正しい選択肢である。

⑤ 前半は①③のところでも述べたように、「木犀」は解放感をもたらしているので、問題なく正しい。後半の記述は酒場での主人とのやり取りを指しているわけで、本文の前半部分が大人の世界、後半部分が子供の世界と言える。厳しい大人の社会と、解放感に浸れる子供の世界との対比と言ってもよいだろう。最後には兄のほうは現実に戻るのだが、選択肢では「子どもたちの生き生きとした行動を誘発する」となっていて、いったん「誘発」された後に現実に戻るぶんには矛盾はない。